

⑥ 先端技術の導入促進、試験・研究開発

プロジェクト

あおもり「農業DX」の実現

目標

- ・スマート農業機械の導入台数※ R4：1,683台 → R10：3,000台
- ※スマート農業機械の発売が始まった平成27年からの累計値

挑戦する内容

- ・本県に適したあおもり「農業DX」の実証
- ・農業デジタル人財の確保・育成
- ・データ駆動型の普及指導體制の構築
- ・スマート農業機械の導入促進

関係者の声
=対話

- ・既存のスマート農業機械は、単一作業を想定しているため効果が限定的（生産者）
- ・機能を簡素化した低価格なスマート農業機械の開発・普及（生産者、市町村）
- ・農業DXを推進するため、指導者のデジタルリテラシーの向上が必要（生産者）
- ・若手の普及指導員は、指導力が不足（生産者）

役割分担

- ・生産者：実証ほ設置・運営
- ・産技センター：各種データの収集・分析
- ・民間企業：各種データの分析結果に基づき、より実用的なスマート技術・機械等を開発
- ・県：開発されたスマート技術・機械等の普及、スマート技術の情報収集・発信

変革後の姿

- ・本県に適した農業DXを実現することで、農作業の効率化に伴う農業所得の向上を図り、人口減少下にあっても本県農業が持続的に発展

令和6年度計画

挑戦する内容

- 1 本県に適したあおもり「農業DX」の実証
 - ・生産者、デジタル技術に精通した民間企業、産技センター等で構成するコンソーシアムに対し、「農業DXを推進し、農作業の効率化や農業利益の最大化」に資する取組を実証委託
- 2 農業デジタル人財の確保・育成
 - ・デジタル技術に係る情報収集・発信
 - ・農業人財のデジタルリテラシーの向上に向けて、蓄積された各種データの分析・活用に向けた研修会の開催
- 3 データ駆動型の普及指導體制の構築
 - ・先進的な生産技術等をまとめた動画の作成
 - ・個別農業者への指導記録のデータベース化
 - ・各種デジタルツールを活用したデータ駆動型の現地指導手法の実証
- 4 スマート農業機械の導入促進
 - ・物価高騰の中、スマート農業機械の導入による経営の継続・発展に取り組む農業者を支援



ドローンの操作実習



自動かん水装置

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（8月、1月）
- ・公募で選定したコンソーシアムごとに、定期的に進捗状況や実証現場の意見を把握し、検証することにより、実証効果を最大化（8月、12月）
- ・先進国視察や各種セミナーの際に、関係団体と意見交換の場を設定（7月、2月）
- ・データ駆動型の普及指導體制の構築については、農協や種苗会社など、農業者に対して生産指導をしている組織と定期的に検討会を開催（5月、11月、3月）